

子どもたちの未来の 森づくり事業



緑の募金では、「ファミリーマート夢の掛け橋募金」並びに㈱ファミリーマートの募金寄付により都道府県緑化推進委員会推薦事業として「子どもたちの未来の森づくり事業」を実施しています。

にちようびの森～森で育つ子どもたち

北海道帯広市



事業概要

誰もが気軽に集える森のコミュニティーセンターをめざし、活動を通じて森づくりへの関心を喚起し、担い手育成を行う。①あそびの森のあしあとづくり；木こり体験や森の手入れ、薪割り、フィールド内の地図づくりや自然観察など。②森のこどもらんど；緊急事態宣言のため中止。③野外の子どもの活動に特化したリスクマネジメント研修会。④子どもの自然体験のノウハウや、森の活動を楽しむヒントを得るための研修会。⑤自然に興味関心を抱ききっかけとして、森の写真絵本づくりワークショップ。

事業成果

コロナ禍で、さまざまな活動が制限される中で、森の中で家族で参加できる本活動への関心が高まった。隔月のあそびの森の活動だけでなく、活動のない月にも自主的に家族で森で過ごす活動が生まれた。森に愛着が生まれ、森づくり活動への関心が一層高まっている。隣接する幼稚園が散

歩コースとして当該エリアを活用するなどの広がりも出てきた。

事業をよく知る関係者の声

- ・森のコミュニティーセンターの形が、かかわるすべての人とイメージを共有できた一年であったと思う。冬季期間を使ってさまざまな研修を行ったことで「やりたいことをするために」という機運が高まっていると感じる。今後は、参加者が迷わず主体的に森づくり作業ができるよう、前期のうちに共有できたイメージをより具体的に設計図をつくり、実践する段取りを整えることが課題と感じる。(はぐくーむ職員)

参加者の声

- ・木を切る、皮をむくところが楽しかった。宝さがしゲームも楽しかった。(小学1年)
- ・回数を重ねるごとに子どもたちが自分たちでどんどん遊び方を見つけている。(父親)



オオアワダチソウ抜き



馬による間伐材の搬出



ツル切り



リスクマネジメント研修会

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.2ha
 除伐面積：4ha
 間伐面積：0.1ha
 調査：2ha
 馬による搬出：0.1ha
 ツル切り：0.1ha
 その他：7回

参加者数

道内：317人
 計：317人

こまおかの森げんきづくり事業

北海道札幌市



事業概要

目的は、子どもたちに緑を愛する健全な心身を養い、社会のために役立つ自主的な活動を行うことで、自然物への愛着が深まり、自然愛護の心情を養うこと。学校林の再生に関わることで、生涯にわたり森林を大切にしようとする心、限りある資源を有効活用しようとする態度を育てることである。主な活動は、学校裏に隣接する「学校林」で、樹木や植物、野鳥、虫の観察を行うこと、森の学習会、植樹体験、育樹体験、伐採・剪定・間伐作業、薪づくり体験活動、巣箱はずし、巣箱かけ、マイツリー活動、ネイチャーゲームなどの自然体験活動である。

事業成果

児童が、学校の教育ボランティアからの指導を受け、学校林で伐採した樹木から薪をつくり、特色ある行事である「野焼き」に活用することで、エネルギーの循環や有効利用について学ぶことができた。地域に居住している学校OBや

地域企業の方がボランティアとして学校林再生の教育活動に協力いただき、つながりをつくることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・学校林を自分たちで育てていることを実感できる教育課程をつくりあげたことがうれしい。できることがあれば力になりたい。(学校OB)
- ・エネルギー循環教育につなげたところが素晴らしい。多くの場で発信すると良いのではないか。(学校教育ボランティア)

参加者の声

- ・学校林を活用し、体験的な学びをぜひ創り上げてほしいと思っていた。学校林の木々が薪となり行事に活用されるといった教育活動が行われうれしい。(保護者男性)
- ・学校林に落ちていたどんぐりも火付けの材料になる。野焼きなどで駒岡小の森の資源を使う可能性が広がるのではないか。(保護者女性)



学校林での巣箱かけ



学校林の間伐材を利用した薪づくり



ミズナラを植樹



マイツリー選定活動

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.5ha
 植付本数：10本
 下刈面積：2ha
 除伐面積：2ha
 間伐面積：2ha

参加者数

道内：32人
 計：32人

樹種

ミズナラ

子どもと馬を中心としたコミュニティによる里山整備及び森林環境教育事業

北海道苫小牧市



事業概要

地域の小学生とともに、なるべく化石燃料を使わず馬を活用した整備作業を通じた活動を通して、子どもたちへの森林環境教育活動の推進と、北海道的里山モデルの構築をめざすこと。そのために、かつて「森のようちえん」に参加していた現小学生を対象に展開している放課後体験活動「森っこアフタースクール」と連携し、馬による森林整備をからめた森林環境教育活動を提供した。また、かつての「森っこアフタースクール」参加者をボランティアとして募集し、活動に協力してもらった。土日を活用し、保護者も参加できるイベント「森っこホリデー」を実施した。

事業成果

今年度から参加者数が倍に増え、かつ子どもたちの経験値も向上したために、森林整備や馬を使った整備活動に対する子どもの貢献度が高まってきた。また、昨年度視察してきた幼稚園へノウハウ移転が進み、新たなフィールド開発

はもちろん、第3の幼稚園からも打診を受けるようになってきた。

事業をよく知る関係者の声

- ・森林を所有する園として、専門家や元卒園した後の子どもや保護者が手入れをしてくれることは有意義であり、ありがたく思っている。幼稚園が森や馬を通して世代や業界を超えてつながっていくことに意義を感じている。(幼稚園園長)

参加者の声

- ・OBとして関わっていることにとっても嬉しさを感じている。今の自分にとっても面白いことであり、かつての自分を「こんなふう楽しんでたんだ」と振り返るいい機会になっている。(高校生ボランティア)
- ・森の中で自由に遊べる機会をつくってくれたことに、感謝している。親である私自身も、ストレス発散になっている。(保護者)



親子で薪割り



薪積み



丸太の結束



森を楽しむ子どもたち

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.5ha
 間伐面積：6ha
 森林資源活用：7回
 イベント：1回

参加者数

道内：60人
 計：60人

ふるさとの森・遊びの森作り事業

北海道恵庭市



事業概要

失なわれていく自然環境の保護と、自然の中の厳しさや五感を生かした保育の充実を主として活動を行う。主な活動は、市内幼稚園、保育園、こども園の自然体験活動の利用、市内学童の放課後育成事業における自然体験、市民への自由開放を行う。

事業成果

地域、周辺企業の認知度が上がり、子どもだけでなく企業のレクリエーション等で利用が見られた。緊急事態宣言下でも感染予防に配慮しながら森の開放を行うことで、親子の息抜きなど森での過ごし方に一定の発展が見られた。

事業をよく知る関係者の声

・森林における環境学習を行うことで、子どもののびのびとした成長と、自信をもって様々なことにチャレンジできるようになった。(保護者)

参加者の声

- ・コロナで公園が閉鎖し、子どもの遊び場がなくなっている中、子どもがのびのび遊べる場所があった。(幼児保護者)
- ・園児が日頃利用する森が生活の一部となった。子どもたち自らやりたいことを森で実現したいと考えようになり、森が身近な存在となった。(幼稚園教員)



幼稚園児の自然体験



薪割り



焚き火



馬で間伐材を搬出

実績とりまとめ

作業内容

- 下刈面積：1ha
- 間伐面積：0.3ha
- 自然保育：32回
- 野外活動：28回
- 教育キャンプ：2回
- プレーパーク：14回

参加者数

- 道内：31人
- 計：31人

まるごと体験ツアー2020

青森県青森市



事業概要

「森林体験」や「木ものづくり体験」を通して、子どもたちに「森の学び」の場を提供すると共に青い森の魅力を内外に発信すること。主なイベントは、「まるごと体験ツアー」と「緑のめぐみ展」であり、以下のような活動を行った。

①現地調査と「森林体験ガイド養成研修」。「まるごと体験ツアー」の森林体験の会場となる青森市浅虫温泉森林公園において、遊歩道の整備や安全確認を行うと共に、スタッフを対象に「森林体験ガイド養成研修」を3回行った。

②開催準備会議。「まるごと体験ツアー」準備会議を2回と「緑のめぐみ展」準備会議を3回行った。

③「まるごと体験ツアー2020」開催。8月13日(山の日)開催予定だったが新型コロナウイルス感染拡大の影響で10月に延期、10月も悪天候のため中止となった。

④「青森市環境フェア」への参加。緑の募金活動並びに「おどろ木をつくろう」イベントを行った。

⑤「緑のめぐみ展」の開催。「ものづくり体験コーナー」、

地域作家グループの手作り木工品の展示、さらに新たに設けた動画コーナーでは「森林体験動画」や「ものづくり体験動画」を放映した。

事業成果

「緑のめぐみ展2021」では「森林体験・ものづくり体験動画の放映」、「ものづくり体験コーナー」など多彩な演出で森林の魅力を発信することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・参加者の人数制限やグループ分け対応、ガイドの増員、感染防止対策が必要となるので、これに対応した細やかな体験プログラムを検討してもらいたい。(あおもりクアガイド協会会長)

参加者の声

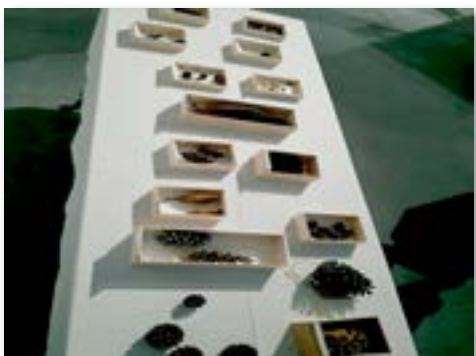
- ・森の中にいる雰囲気は漂っていて、とてもリラックスできた。(「緑のめぐみ展2021」女性)



浅虫温泉森林公園ガイド研修



飛沫防止パネルとものづくり体験(青森市環境フェア)



緑のめぐみ展作品コーナー



緑のめぐみ展 シンボル作品

実績とりまとめ

作業内容

研修会：1回
環境フェア：2回
展示会：1回
遊歩道整備：1日

参加者数

計：287人

子ども達の学びと遊びの共遊の森づくり事業

宮城県利府町



事業概要

学校や親子などが安心して自然体験活動を行うためには、安全で安心できるフィールドづくりと、安心して参加できるイベントと、活動を主導する森のプロ団体の支援が必要である。そこで、①親子や学校が訪れやすい近場でかつ駐車場がある施設からアクセスできる場所に自然体験フィールドを整備する。その後丁寧に維持管理し、さまざまな自然体験を楽しめるレベルで保全する。②親子が気軽に参加できるイベントを数多く開催する。③学校に対しては、安全でかつ魅力的な森づくり・自然体験プログラムを提案する。④経験豊富なスタッフを十分に配置して、子どもたち安全に楽しく森のこと、自然のことを体験しながら学べるイベントを実施し、森に来ることが普通のことになる地域づくり、社会づくりをめざす。

事業成果

親子や学校の森づくり活動フィールドが整備され、自然

体験+本格的な森づくり体験のイベントを実施できるようになった。また、森づくりのプログラムが充実し、イベントや学校単位の森づくり活動の幅が広がった。実際に地域の校長先生や児童館の館長等で構成する「県民の森運営委員会」などでプログラムが紹介され、高い関心が示された。

事業をよく知る関係者の声

- ・イベントに参加した親子は、自然体験だけでなく土木や機械作業等、さまざまな貴重な体験ができて楽しそうだった。(宮城県県民の森管理事務所所長)
- ・クマの出没やイノシシの被害が相次いでいることから、森の見通し良くしていただきありがたい。(利府町職員)

参加者の声

- ・学校ではできない活動をたくさん体験できた。私達も楽しかった。(小学校教員)
- ・森についてたくさん学ぶことができた。ネイチャークラフトが楽しかった。(小学生男子)



親子で植樹



みんなで協力してヒノキ伐採



親子で除草



雑木林での除伐

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.04ha
 植付本数：45本
 樹勢回復：180本
 下刈面積：0.5ha
 除伐面積：0.5ha
 イベント：10回
 花壇づくり：20㎡
 遊歩道づくり：190m

参加者数

県内：644人
 計：644人

樹種

ユーカリ、トキワマンサク、
 ツツジ、ニシキギほか

子供たちへ繋ぐ森林の風

秋田県北秋田市



事業概要

荒廃した山林(里山)を、自伐作業・整備清掃・植樹によって再生をめざすとともに、子ども達が自分たちの住む地域の緑化を考えるきっかけとして実施した。植樹当日は、伐採した間伐材で工作体験を行った。地域の親子、友達グループでの参加が多く、指導を受けながら植樹をした。小鳥巣箱取付場所は子ども達がいつでも楽しめるように整備した。

事業成果

コロナ禍だったが昨年より多い参加者となった。親子での活動に子ども達が参加を喜んでくれたようだ。昨年参加した親子が、小鳥が入ったかを確認めたいと参加が増えた。

事業をよく知る関係者の声

- ・このような企画は子ども達には最高の体験、今後も続けてほしい。(地元製材所)
- ・1回から参加している。親子での参加が多く笑顔がいい。(市議会議員)
- ・散策路も歩きやすいので植えた自分の木を見に来たい。(福祉障がい者施設職員)

参加者の声

- ・子ども達が生き生きと動く姿は嬉しかった。(30代父親)
- ・子どもたちは植樹の際もスコップを離さずに楽しんでいった。(40代子ども2人参加)
- ・自然の中で親子で小鳥や木の話をして癒されました。(30代母親)



植樹地の刈払い



ブナ、ナラ、クリなどを植樹



巣箱づくり



巣箱の取り付け

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.4ha
 植付本数：180本
 下刈面積：0.4ha
 除伐面積：0.4ha
 道路整備：100m
 巣箱づくり：30個

参加者数

県内：79人
 計：79人

樹種

ブナ、ナラ、クリ

モニワ桜を増やして植えるプロジェクト

福島県福島市



事業概要

福島市の固有種モニワザクラを子どもたちや市民に広く知ってもらうとともに樹木に親しむ機会を提供する。主な活動は次のとおり。①福島市の小学生、中学生、高校生と福島市民を対象に行った。コロナ禍の開催であったため、ロータリークラブの会員家族、従業員並びに、クラブと関係のある養護学校の小学生、高校生を対象に実施。②福島ロータリークラブで継続して実施しているモニワザクラの接ぎ木を行うことで、さらに今後福島市内でモニワザクラを植樹し、緑と花を増やし、市民が樹木に親しむ機会を提供した。③接ぎ木作業を実施することにより苗木の生産方法を学んだ。④接ぎ木した樹木は養護学校や高校に植樹され子どもたちは緑化促進の喜びを感じた。

事業成果

晴天の秋空の下楽しく接ぎ木作業を実施した。講師から

は、接ぎ木して育てられた果樹畑で、果樹の成長過程を見せていただき、参加者は大変勉強になった。当初は、子どもを対象にしていたが、大人も大変興味を持って参加し、熱心に講義に耳を傾けていた。

事業をよく知る関係者の声

- ・接ぎ木による苗木の生産方法を学ぶことができた。
- ・自ら接ぎ木した苗が来年学校や職場、自宅などに植樹することで緑化推進の喜びを感じることができる絶好の機会となった。
- ・学校のクラブ活動で応用できる。(養護学校教員)

参加者の声

- ・初めは難しかったが、慣れると上手くできた。(10代～30代男女)
- ・接ぎ木の講習は大変勉強になった。(50代～70代男女)
- ・また参加して福島を花いっぱいになりたい。(20代男性)



青葉桜の台木にモニワザクラを接ぎ木



子どもたちも参加して接ぎ木



慎重に作業



接ぎ木プロジェクト参加者

実績とりまとめ

作業内容

接ぎ木本数：200本
森林教室：1回

参加者数

県内：45人
計：45人

ふるさとの風景づくり植樹祭

福島県矢祭町



事業概要

目的は、子どもたちが自慢できるふるさとの風景づくり(地域の風景をリデザインする)。主な活動は次のとおり。耕作放棄地を地域の方々と協働で整備し、福島復興支援を兼ねて、原発事故により見ることができなくなった富岡町の夜ノ森桜等を、地域の子どもの協力を得ながら地域の方々と植栽する。

事業成果

福島県が独自に緊急事態宣言を発出したため、子どもたちの参加を見送らざるを得なかった。土地所有者を中心に参加を想定していたが、地域の女性や高齢者など多数が参

加。今回の活動の近接地から、自分の土地も事業の対象にしてほしいとの要望も出された。来年度はさらに仲間を増やして活動したい。

事業をよく知る関係者の声

- ・地域で活動しているボランティア団体はないので、より多くの協力者・理解者を増やすことが課題である。

参加者の声

- ・子どもたちの参加は見送ったが来年はぜひ参加させたい。
- ・自分が生きているうちにサクラの花が見られるといいな。(高齢者)



植樹地を整備



サクラ、ヤマボウシを植樹



花を見る日を楽しみに



植樹に参加したみなさん

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.3ha
 植付本数：100本
 下刈面積：0.2ha
 植栽地整備：0.3ha

参加者数

県内：132人
 計：132人

樹種

サクラ、ヤマボウシ

私たちの住むふるさとの森づくり

茨城県筑西市



事業概要

近年、太陽光発電用地として平地林が伐採され、急速に里山が減少している。一方、管理が放棄され、荒廃した平地林も増加している。地元に残された貴重な里山を保全し、子どもたちの自然体験や環境教育の場として、また市民憩いの場として整備・保全に努めている。今年度はコロナ禍のため、大幅な事業の縮小を余儀なくされたが、地元小学校の理解を得て6年生全員による植樹体験を行った。

事業成果

機械器具の更新が行われ、作業の安全や効率化に大いに役立った。感染対策を徹底し、6年生60人による植樹体験を開催し100本の苗木を植樹した。環境教育は机上よりも実体験が有効ということを改めて感じた。春の植物観察会は感染対策を徹底し開催できた。コロナ禍にもかかわらず、応募が多く、自然に癒しを求める方が多いと感じた。

事業をよく知る関係者の声

- ・当校では里山を自然体験の場として授業に取り入れているが、今年はコロナ禍でなかなか里山(五郎助山)に行けず残念だった。「里山を守る会」より6年生に小学校最後の思い出として、植樹体験をさせたいというご提案あり、感染防止を徹底し実行させていただいた。久しぶりの里山体験で子どもたちにも笑顔が戻った(小学校校長)

参加者の声

- ・「春の植物観察会」に子どもと参加したが、感染予防も徹底され安心だった。久しぶりの自然の中で子どもたちは、はしゃぎ回り、天気にも恵まれ、楽しいひと時を過ごすことができた。森の中で摘んだ山菜の天ぷらは最高でした。(30代保育士)



6年生がコナラ、クヌギ、モミジを植樹



下刈



春の植物観察会



山菜の天ぷらを楽しむ

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
 植付本数：100本
 下刈面積：2ha
 植物観察会：1回

参加者数

県内：168人
 県外： 2人
 計：170人

樹種

クヌギ、コナラ、モミジ

子どもたち参加の森づくり活動

茨城県古河市



事業概要

里山が、生活環境の変化等により管理が放棄され、荒廃に加えて都市部からの産業廃棄物の不法投棄により景観・樹木の生育環境は著しく損ねられている。そのような中、世界の大きな課題になっている地球温暖化について、身近な里山が森林としての機能が果たせない状況を捉え、保全整備に平成21年に着手した。会員のみでの活動ではなく、市民の関心が高まり保全の機運が上がるのが里山の再生（自然環境保全）に繋がる活動の一助として、子どもたちの里山体験活動を展開することが多くの市民に知られるようになっていく。また、里山にふれあうキッカケをつくる要因となり、ひいては市民の自然環境（里山）保全の啓発につながる。子どもたち参加の活動は平成22年より小中学生参加のもと実施している。

事業成果

サクラの開花を見学した市民からは、身近なところに豊

かな森があったのかと驚嘆の声が聞かれた。里山を花山にすれば、市の活性化にもつながるのではないかとの話題もあった。学校も里山活動を推奨しており、自然環境体験が教育活動に貢献していると自負している。

事業をよく知る関係者の声

- ・会員の高齢化が課題であり、若年層の会員加入を進めたい。また、現在の里山は個人所有が多く、所有者に保全管理を期待するのは無理であろうとの声がある。管理している里山内には市有林もあり、当会にて保全管理している。今後も市の意向等、里山全体を鑑み対応することになる。

参加者の声

- ・これまではゴミ山との認識しかなく、不法投棄の業者等との接触を恐れ遠ざかっていた。森がきれいになれば、産業廃棄物の持ち込みもできなくなる。（観察会）



クリ拾い



アジサイの植樹



里山の生き物探し



シイタケの植菌体験

実績とりまとめ

作業内容
 植付面積：0.8ha
 植付本数：200本
 下刈面積：10.3ha
 除伐面積：1.5ha
 観察会：1回

参加者数
 県内：50人
 計：50人

樹種
 アジサイ、サクラ

茨城町小中学生の「体験学習の森」の環境整備

茨城県茨城町



事業概要

茨城町が毎年主催する「里山自然体験」を通じて、参加する子どもたちに身近な里山で自然の恵みを感じてもらうこと。主な活動は以下のとおり。①開催する森林・竹林の年間を通じての草刈りや枯木の伐採などの整備、②伐採木でイベントで使用する薪づくり、③イベントで行う竹工作(弓矢、鉄砲)等を通じた環境学習。

事業成果

今年も茨城町からの依頼を受けて里山自然体験を実施した。コロナの影響でできなくなった他団体の分も受け持つことになり、2回で38人の参加があった。内容は、タケを伐採し竹細工(1回目は弓、2回目は鉄砲)を実施した。昼食もサバイバル料理で、ビニール袋でカレーとパン生地づ

くり、そのパン生地を竹串に巻き付けて、伐採木でつくった薪で焚火を行い焼いて食した。これらの活動を通じて、森林環境学習のフィールドとして効果的な活用ができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・ 荒廃した森林の回復のために、継続した草刈りや倒木処理などの整備活動は大変な作業である。良く整備された森林はとても気持ちの良いもので、子どもたちの里山として活用されていてうれしい。(茨城町農政課職員)
- ・ 自然の恵みと楽しさを十分に体験でき、年間の人気行事として定着している。(茨城町生涯学習課職員)

参加者の声

- ・ たくさん自然に触れ、互いに協力しながら様々な経験をすることができた。



タケの伐採



タケを切り分ける



タケ細工



「サバイバル料理」

実績とりまとめ

作業内容

下刈面接：1.5ha
チップ作業：1回
クラフト体験：2回
竹林整備、シイタケ植菌ほか

参加者数

計：324人

市民による里山と共生する持続的保全の実践

茨城県土浦市



事業概要

目的は、生物多様性のある森づくりを広く市民参加による活動により実現すること。主な活動は以下のとおり。①多様性のある森にするため、伐採、下刈、落ち葉かきを行った、②竹林の侵入拡大を防ぎ適切な竹林管理を行った、③子どもたちが安全、安心して活動ができる空間を整えた。

事業成果

多様性のある森にするため、伐採・下刈・落ち葉かきを行った。床植物等が生えてくる条件が整った。竹林の侵入拡大を防ぐため、タケ伐採等を行った。安全に活動できる教育の場を提供できた。

事業をよく知る関係者の声

・下刈や伐採などにより整備された場所が増えた。明るく

歩きやすく安全な場所で子どもたちを活動させたり、遊び場にしたりできてとても助かっている。今後も整備を続けてほしい。(子ども探偵団担当理事)

・整備活動のお陰で、月例観察会や子ども探偵団等の里山を使った環境教育が安全に行われている。また、整備された里山の美しい風景に訪れた多くの人が安らぐ、癒されたと感想を述べている。(教育部会担当理事)

参加者の声

- ・竹林の整備が進んでいるが、竹林拡大の脅威も増している。若者たちの力が必要であると感じる。(60代女性)
- ・ツル類やトゲのある木々を伐採した。コナラの林となって林床にヤマユリがいっぱい咲いてほしい。(70代男性)
- ・分け入ることができなかった竹林が間伐することによって自由に入ることができるようになった。これならタケノコ採りも期待できる。(70代男性)



倒木の処理



竹林整備



倒木などでベンチづくり



落ち葉を枠に入れて「落ち葉ブロック」づくり

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：7.8ha

保全活動：19回

倒木処理：22本

参加者数

県内：210人

県外：9人

計：219人

ひだまり里郷プロジェクト こどもの森整備

栃木県高根沢町



事業概要

手入れが不十分であった私有地を地域の企業や事業所・団体・行政・NPOが連携し、2016年より下刈や間伐・危険物の除去・遊具づくりなどを実施してきた。企業にとって職員がリフレッシュできる森であったり、保育園にとって森を使った保育プログラムの開発を行う場であったり、NPOにとって子どもたちの環境教育のフィールドであるような森をめざしたい。また、プレーリーダーなどの育成を行いながら、みんなが楽しめるプレーパークができ、自治会や育成会との地域交流にも貢献したい。

事業成果

ボランティアでは難しい太い木や傾斜地にある木の間伐を専門業者にお願いでき、陽が入る森になった。また、案内看板の設置ができ、利用者に周知することができた。また、新たに近隣の環境事務所の方々がボランティアに入っただけ、生態系の調査も実施できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・コロナ禍ではあったが、森林整備は限られた機会や人員で遂行できていたと思われる。コロナ禍の先行き不透明である中ではあるが、里山を活かした森林の良さを普及するイベントの確立というプロジェクトの目標を達成するために、プロジェクト構成メンバーと連携し、里山への遊具の設置やイベントの検討などを進めてほしい。(町役場職員)

参加者の声

- ・森林整備のボランティア活動を通して、いろいろなことを学ぶことができた。たくさんの人たちと助け合いながら活動することは楽しかった。そして、ボランティアをした後は、緊張していた気持ちもなくなり、有意義な時間となった。森林整備ボランティアでの気持ちを忘れずに、これからも誰かのためになるようなことをしていきたい。(中学2年)



下刈



生きもの観察会



落ち葉掃き



作業に参加した皆さん

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：2.1ha
 間伐面積：2.1ha
 生物調査：2.1ha
 生き物観察会：1回
 クラブ教室：1回

参加者数

県内：123人
 計：123人

ふるさと糠塚山の里山環境保全事業

栃木県鹿沼市



事業概要

菊沢地区にある里山 糠塚山の環境整備のため、次世代につないでいくための里山保全事業。

事業成果

糠塚山全体が整備され、樹木が間伐され整備されたため、林内に光がさして良い公園となった。次世代につなげるための里山環境が整い自治会の協力も得られた。また、子ども育成会の新たな楽しみの場所にもなった。子どもから高齢者に至るまで、憩いの場所として整備された。

事業をよく知る関係者の声

・コロナ禍であったが作業が進んで良かった。

- ・次世代へ里山環境保全を今後どのように位置付けるかが課題。
- ・自治会や近隣の子ども育成会等に呼びかけ自然体験の場として活用したい。

参加者の声

- ・新たな子どもたちの遊び場ができたことに喜びがある。(50代男性)
- ・子どもが自然に触れ合う場所ができてうれしい。(30代女性)
- ・これからも里山の自然を守る活動を続けていきたい。(40代男性)
- ・巣箱などを設置したい。(町内子ども育成会会長)



間伐され明るくなった林内



整備された里山



サクラ、ヤマモミジほかを植樹



サクラ

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.07ha
 植付本数：81本
 下刈面積：0.15ha
 間伐面積：0.3ha

参加者数

県内：78人
 県外：5人
 計：83人

樹種

サクラ、ヤマモミジほか

みんなで作るみんなの森プロジェクト

栃木県那須塩原市



事業概要

目的は、生物多様性に富んだ森林を再生するため、荒廃林となっている保育園の園庭林を活用して、子どもたちが森林の役割や整備の必要性を学びながら、すこやかに成長することをめざす。主な活動内容は以下のとおり。全6回ともワークショップ形式で開催。①整備する荒廃林の用途を計画するワークショップ「ランドデザイン」、②自らの体験を通じて森林整備の技術を学び、森林の役割や整備の必要性を学ぶ「下刈」「間伐」「落ち葉掃きと堆肥づくり」「薪割り」、③ツリーハウスの計画づくり。

事業成果

荒廃林の地主が整備後の私たちのフィールドを見て自分の土地を自ら整備した。参加者募集にあたりチラシやHPほか、知人等に積極的に声をかけたことで保育園関係者以外の方も参加し、参加者の多様化を実現した。整備面積の拡大により森林活用の幅が広がり、参加者自らが関わり活用計画づくりに関わったことで、自主的な森林整備に向けた意識が生まれた。

事業をよく知る関係者の声

- ・各回のワークショップの位置づけをより明確にすることで、実施効果が高まる。事業終了後の自主的な活動継続のため、情報発信活性化で新規ファンを増やし体制の強化を。(NPO理事)
- ・ツリーハウスづくりの実践者から話を聞くことで、具体的にイメージを膨らませることができた。現場の自然の中で考えることで、子どもたちの豊かな発想を引き出した。(公務員)

参加者の声

- ・6回のワークショップを1日で実施できないか。参加したいが日程調整が困難なため。(60代男性)
- ・間伐したことで林に光が差し込み木々が喜んでいるようだ。(30代男性)
- ・シノタケの処理は困難だ。チップパーにかけても機械に詰まってしまう。(60代男性)



間伐体験



下刈



落ち葉掃きと堆肥づくり



ツリーハウスづくり構想

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.4ha
 間伐面積：0.4ha
 森林資源活用：0.4ha
 森林資源活用：0.25㎡

参加者数

県内：116人
 計：116人

宮崎公園ツツジを未来へつなぐ

群馬県富岡市



事業概要

枯死により失われている宮崎公園の貴重なツツジの種を保全し、挿し木植栽に必要な環境を整え、公園の価値を地元の子どもたちとともに継承していく。主な活動は以下のとおり。地元富岡実業高校生によって、公園内のツツジから挿し木で育てた苗木を同高校生と地元かしの木保育園園児により公園内に植樹した。その際、富岡市からツツジの調査を依頼している群馬県文化財保護審議会委員の方に指導いただいた。

事業成果

感染対策のため、保存ツツジの採穂が適期に行えず挿し木の成績は不調であった。しかし、採穂技術や挿し木の留意点など、樹木医からの指導は当会会員の技術向上に役立った。

予定していた市民による植栽やツツジ解説ツアーも実施

できなかったが、富岡市実施の宮崎公園つつじ祭りにあわせ、地元幼稚園児とともに、当事業で整備した植栽地にツツジを植栽することができた。

子どもたちはもとより保護者やまつり参加者に、宮崎公園のツツジの大切さを伝えることができ、地元への愛着を深められた。地元高校で育成した苗を育成した生徒が幼稚園児に植栽を教える姿は、世代をつなげるものとして有効であった。

事業をよく知る関係者の声

- ・宮崎公園のツツジを地域の貴重な資源として後世に伝えていきたい。(地元自治会長)

参加者の声

- ・大きくなるのが楽しみ。(参加者)
- ・子どもが大きくなってもしょしょに来て見たい。(参加者保護者)



植樹前の説明



オオヤマツツジほかを植樹



植樹に参加したみなさん



木製筋工

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：10本
挿し木本数：100本

参加者数

県内：80人
計：80人

樹種

オオヤマツツジほか

みんなで守ろう 育てよう!よしみ里山プロジェクト

埼玉県吉見町



事業概要

所有者の高齢化等で手入れ不足で荒廃した里山の保全とその活用、地域住民と共に行う森づくりを通じた森林ESD活動を行う。主な活動は以下のとおり。①活動目的の説明とレクチャー（里山保全活動、世界と日本の森林の現状、SDGs）、②自生樹木の観察、③落ち葉溜めづくり、④保全活動（落ち葉掃き、伐採）、⑤ホダ木づくり・シイタケ植菌、⑥植樹、⑦木工クラフト、⑧樹幹ロープによる綱渡り遊びなど、⑨バイオマストイレの製作。

事業成果

活動地は宅地造成地域に隣接した雑木林。水道や電気やトイレなどのインフラがなく、大人でも徒歩10から15分かかかる近隣の公園トイレを利用してきた。コロナ禍の影響で一般参加による活動が結果的に減ったためスタッフ数人で

週末6か月をかけて、最小限の予算でバイオマストイレを手づくりで設置した。5月活動では、バイオマストイレの仕組みを説明し、循環型農業（果樹）を具体的に説明していく新たな学びの環境ができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・町の保全活動を継続してきたことから、新たな管理地について相談があった。（役場職員）

参加者の声

- ・子どもたちが楽しみながら体験学習できそうだったのが一番の参加の動機です。
- ・子どもたちが自然の循環や森や緑の大切さなどを楽しく体験しながら学べたことは、貴重な機会となった。また、親もコロナ禍でなかなか外に出かける機会も減っていたので、自然で身体を動かすのが気持ち良かった。



どんぐりポット苗づくり



モミジ、クロモジほかを植樹



シイタケ植菌

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.3ha
 植付本数：24本
 下刈面積：0.8ha
 間伐面積：0.2ha
 腐葉土づくり：4回
 自然観察：2回
 クラフト：1回

参加者数

県内：146人
 県外：28人
 計：174人

樹種

モミジ、クロモジ、果樹

親子でとりくむ「森のがっこう」拠点づくり

千葉県千葉市



事業概要

都市部における持続可能な森づくりとそれを支える人づくりのために、誰もが参加できる「森のがっこう」を構築する。主な活動内容は以下のとおり。①森の調査…森の中にはどんな動・植物が在るのか調べる、②森をまもる…下刈、枝打ち、ツル切り、残材を薪にする、植栽した苗木を守る、土壌改良やエアレーションを施す、枝葉は可能な限り粉碎してチップにする、③森を彩る……小鳥の巣箱をかける、虫の棲み処を作る、ビオトープをつくって森のいきもの観察をする、④森を楽しむ…間伐材を製材して巣箱やおもちゃを製作、丸太を使っていすづくり、薪をつくり燃料にしてクッキング、グリーンウッドワークの手法で間伐材からツールづくり、森の恵みでクラフト。

事業成果

自然災害による倒木の除去やその活用も進み、幹や枝はもちろん、実や葉も使って森活動を楽しめている。整備だ

けではないこういった活動が、持続可能な取り組みを支えている。活動の度に新たな参加者が増えている。

事業をよく知る関係者の声

- ・伐採した森の木を自然乾燥させ、製材した板を使って自分で巣箱をつくり、それを森に掛けに行く。そしてその巣箱がどういう使われ方をしたのかまでを観察することはなかなか経験できないプログラムだと思う。(森林インストラクター)
- ・森林の循環利用について皆で体験を通して学ぶとともに、その過程で樹や森にかかわる仕事をする方々との出会いは貴重な体験となった。(小学校教員)

参加者の声

- ・自分たちで植えた樹が森へ行くたびに成長している様子をみることができ、うれしい。(保護者)
- ・森を元気にするために、下刈は続けていかななくてはいけないと思う。(小5女子)



ヤマザクラ、クヌギほかを植樹



ツル切り



製材所見学



巣箱づくり

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.08ha
 植付本数：38本
 樹勢回復：4本
 下刈面積：0.78ha
 間伐面積：0.02ha

参加者数

県内：406人
 県外：19人
 計：425人

樹種

ヤマザクラ、クヌギ、モミジ、カエデ、ヤマボウシほか

歴史ある学びの森で、地元の小学生へ体験学習

東京都八王子市



事業概要

聖パウロ学園高校の学校林であるパウロの森をフィールドにした体験学習で、地元の子どもたちが森の役割や自然の大切さなどを学び、それに相応しい安全な森づくりに継続的に取り組むことにある。具体的にはパウロの森くらぶが森を整備し、今年も恩方第1小学校・恩方第2小学校児童に対し下記4回の森林学習プログラムを企画・実施した。1年生「いろいろなはっぱをあつめて、すきなはっぱのえをかこう!」、2年生「葉っぱを集めて工作をしよう」、3年生「パウロの森のたんけん隊」、4年生「森に入り間伐作業を見て木を切る体験をして恩方の森を体験する」

事業成果

昨年も一昨年に続き、4回中2回雨で学校の校舎での授業になったが、昨年から予定日が雨の際の予備日を設けてもらい、全4回が実施できた。昨年の経験と成果が生きた。

1年生の植樹プログラムが3年目に入り、2年生、3年生が自分たちが植樹した成果を実際に見ることができた。自分で成果を確認できる効果は大きい。

事業をよく知る関係者の声

- ・自然に囲まれた地域ですが、きちんとその自然を学ぶ機会は、普段なかなかありません。短い時間の中、上手に子どもたちの興味を引き出してくださり、楽しい時間を作っていただき感謝しています。「自然の中で」という実体験の力は大きいと感じています。(副校長)

参加者の声

- ・パウロの森は新しい経験ができ、とても楽しいのでまた来たい。(子どもたち)
- ・子どもたちの笑顔が楽しみで毎年進んで関わりたい。予備日の設定が大変きついが補って余りある体験です。(スタッフ)



1年生 葉っぱのお絵かき



2年生 工作



3年生 森の探険



4年生 間伐見学

実績とりまとめ

作業内容
 体験授業：4回
 森の整備：2回

参加者数
 都内：43人
 都外：7人
 計：50人

稲城市立長峰小学校学校林ルネサンス事業

東京都稲城市



事業概要

地域の緑化空間でもある稲城市立長峰小学校の学校林について、鬱蒼とした雑木林となっている状態の学校林を伐採整理し、適正管理を行うことで学校林を再生させ、野鳥や昆虫が飛来する憩いの空間とすることで地域住民にも良好な緑空間を提供することを目的としている。森や樹木に親しむ一環として、秋には学校林や近隣公園等で採取したドングリを利用しドングリクラフトを作製した。また、伐採した空間には在校6年生が総合学習の事業の一環で学習・検討する中で果樹を選定し植栽した。

事業成果

学校林ルネサンス事業の進捗によって、長峰小学校の在校生が学校林に植栽されている樹木について関心を持ち、森と人との関わりや、森に飛来する野鳥や森に生息する昆

虫の生態に関心をもって総合学習を進めるきっかけとなった。また、学校林が地域の貴重な緑空間であるとの認識を深めた。事業推進の中で、学校林の樹木の副産物であるドングリを利用し、ドングリクラフトを作製し、樹木が自分たちの生活を美的にも豊かにすることを体感した。

事業をよく知る関係者の声

- ・この事業を通じて樹木への関心が高まり、生物多様性への関心も高めることができた。(学校関係者)

参加者の声

- ・樹木の名称や特性について学べたことは有意義だった。(6年生)
- ・伐採地に自分達が検討した果樹を植栽し、果樹の育成や果実が楽しみ。



ドングリクラフト



伐採・剪定



学校林管理講座



果樹の植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：10本
除伐面積：0.1ha
講座：2回

参加者数

都内：160人
計：160人

樹種

プラム、レモン、ミカン、サクラ

豊ヶ丘小学校林活用・再生プロジェクト

東京都多摩市



事業概要

目的は40年前から学校敷地にある林を今までのように子どもたちの学習、体験の場として守っていくこと。そのために、①手紙や学校のホームページで学校林の様子を伝える、②年間7回位の整備作業、③定期的に学校林の中を見て回り危険な枝がないか確認、④多摩市のグリーンライブセンターに連絡を取り林の状態について助言をもらう。

事業成果

今年度もコロナ禍の影響でできないこと（工作会、银杏拾い）もあったが整備作業はおおむね予定通り実施できた。高学年の「総合」学習でも地域と協力して学校林の保全を考える学習が行われた。

事業をよく知る関係者の声

- ・教育環境としてとても良い学校林を地域といっしょに守っていききたい。植生も変化してきているが元々の多摩の林の植生を残していければと思う。常緑樹は適切に伐採するなどエリアごとの保全の仕方を考えて整備作業を行いたい。（地域在住・樹木医）

参加者の声

- ・初めてノコギリを使って木を伐ったのが楽しかった。（4年生）
- ・親子で参加して学校林のある良さを感じた。（40代保護者）
- ・地域の協力をいただいて学校林の整備をできたことをありがたいと思う。（教員）



落ち葉溜め



シイタケほだ木の整理



杭づくり



学校林のゲート設置

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.25ha

参加者数

都内：120人

計：120人

4年生林業体験(間伐作業・下草刈り) 5年生林業体験(間伐作業・枝打ち) ~相原小学校における「木育」~

東京都町田市



事業概要

地域の人々から相原町の歴史を学び、林業体験を通して、地域のすばらしさと自然を大切にしようとする気持ちを育むことである。主な活動は、相原共有林の歴史や地域の方々の思いを知る(相原保善会の方のお話)、間伐の様子を見学する、下刈体験(4年生)、枝打ち体験(5年生)、境川源流散策である。

事業成果

同規格のカマ、ノコギリをクラス人数分使用することにより、効率的に体験することができ、一人一人の作業時間を十分に確保することができた。また、相原保善会の方々が境川源流までの道を整備してくださったことで、最初の一歩を見ることができ、森林の保水力についての理解が深まった。

事業をよく知る関係者の声

- ・しっかりとした道具をそろえてもらい活動が充実した。よく切れる道具のほうが、むしろケガをしないので良い。(相原保善会役員)
- ・コロナ禍、例年通り開催することができて良かった。今後も大切な活動として、継続して行ってほしい。(相原保善会役員)

参加者の声

- ・林業体験に初めて参加して、とても貴重な体験をすることができていることを実感した。(4年生保護者)
- ・相原共有林や保善会の方々の活動について、くわしく知ることができて良かった。(5年生保護者)
- ・森林を守ることの大切さを勉強して、保善会の人たちがしていることは、とても大切なことだと思った。(4年生)



森林についての説明(4年生)



下刈(4年生)



枝打ち機による作業を見学(5年生)



丸太切り(5年生)

実績とりまとめ

作業内容
 下刈面積：0.5ha
 間伐面積：0.5ha
参加者数
 都内：218人
 計：218人

みんなで集う多様で豊かな森づくり活動

東京都八王子市



事業概要

八王子市南浅川町梅ノ木平国有林、部分林、及び隣接民有林(約82ha)を対象に植樹等の森林整備を行う。また、作業フィールドや宿泊研修施設を活用して森林体験教育を行う。主な内容は、①過密になっているスギ・ヒノキ人工林の間伐と風倒被害木等の処理。②ツル切り、除伐、林床整理、植樹、歩道整備。③学校や企業、地域グループ、親子などを対象にした森林作業体験教育。④間伐材を利用した木製品の製作と福祉施設への寄贈などである。

事業成果

①天然林施業・刈出しや広葉樹の植樹を実施したことでスギ・ヒノキ人工林の混交林化が進んだ。②間伐・除伐等の作業を新規の森林で行ったことで、整備済み森林が拡大した。③親子などを対象に16回の森林作業体験を行い森林理解の増進を図った。④間伐材を活用して活動の拠点整備を実施した。

事業をよく知る関係者の声

- ・5年生の授業として森林体験を行ったが、自然の中でも体もリフレッシュし、帰りのバスはみんな笑顔が絶えなかった。(小学校教員)
- ・木材がどのように生産されるかを実践を通じて学ばせたかったがコロナ過でできなかったのは残念だった。来年度はぜひ行いたい。(高校教員)

参加者の声

- ・植えたクリの木の成長が楽しみだ、また会いに来たい。(小学5年)
- ・木を1本伐るだけでも重労働であることが初めてよく分かった。(男性)
- ・間伐した後の林が見違えるように明るくなり気持ちが良かった。(女性)
- ・山を良くするためには木を伐ることと、その木を使うことが大事。(男性)



オニグルミ、カツラ、トチノキほかを植樹



小学生の植樹体験



間伐体験



木工体験

実績とりまとめ

作業内容

植樹面積：0.4ha
植樹本数：300本
間伐面積：0.9ha
ツル切り除伐：1.7ha
歩道整備：1km
体験活動：16回

参加者数

都内：688人
都外：180人
計：868人

樹種

オニグルミ、カツラ、トチノキ、ヤマグリ、イタヤカエデ、ヤマザクラ、ホオノキ

故郷の里山再生および園芸文化の復活プロジェクト

新潟県三条市



事業概要

荒れた里山を整備し、かつて緑化造園木の生産地であった頃の姿を取り戻し、地元住民および一般外来客が散策できるような環境を創出し、地域の活性化に貢献すると共に三条市の観光資源とすること。主な活動は以下のとおり。①はびこっているモウソウチクの駆逐（伐採したタケはクラフトなどに活用）、②豪雪によって折れたり倒れたりした支障木の伐採・撤去もしくは現場集積、③将来的に生産地の情景を創出することを前提とし、支障木の伐採・撤去もしくは現場集積、④遊歩道からの景観を楽しめるよう、情景をふさぐ樹木を撤去し、休息スペースを創出、⑤低地から見上げても作業成果がわかるレベルの整備をめざす。

事業成果

保内公園隣接民地の北側斜面を集中的に整備し、相当数の高木や腐朽木を伐採処理した。このことで明るい空間や新たに植樹できるスペースができ、ヤエザクラを植えるこ

とができた。軽トラックが入れる搬出路をつくり、リレー輸送で搬出を行ったが大径木は搬出できず、人力で動かせる程度に刻んで現場に集積した。

事業をよく知る関係者の声

- ・支障木を伐採することで地表面への日当たりが良くなり、新たな植生が生まれると思う。下刈などを継続していくことが大切。（公園当初設計参加者）
- ・子どもたちが自然環境に親しめる環境づくりに参加することで、緑に親しむ心を醸成するのは大変良いことだと思うので継続して企画していただきたい。（小学校長）

参加者の声

- ・1本伐ると新たに支障木が現れてくる。ファイトを奮い立たされる。（60代男性）
- ・若い人たちが、里山整備という思いと地元愛を引き継いでくれるだろうか。（60代男性）



モウソウチクの伐採



支障木の伐採



シダレザクラの植樹



歩道脇を整備

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
植付本数：10本
下刈面積：0.5ha
除伐面積：2.3ha
間伐面積：0.5ha

参加者数

県内：214人
計：214人

樹種

ヤエザクラ

子どもたちの未来の森づくり事業

石川県輪島市



事業概要

第66回全国植樹祭は、2015年5月に石川県で開催され、記念植樹が小松市「憩いの森」で行われた。植樹されたケヤキ、タブノキ、スタジイ、サカキ、アテ等、地域を代表する樹木は順調に成長しているが、継続した保育が必要である。「憩いの森」にはハイキングコースもあり小松市街から近く、地域のシンボルトとなる森に育て、学童の「森の学び」のフィールドとして整備する。また、輪島市金蔵地区には、美しい里山や奥能登の原風景を留める棚田維持に不可欠な用水溜池周辺の山林保全活動が地域住民により行われているが、高齢化に伴い次第に困難となっている。そこで、地元住民並びに小中学校と連携し、未来に引き継ぐ地域の象徴的な森づくりを行う。主な活度は、以下のとおり。「憩いの森」①植樹区域の下刈、②植樹区域に隣接する法面の雑木伐採により、ハイキングコースの景観改善。「金蔵の里山保全」①金蔵山の休憩用東屋周辺の下刈、②集落に隣接する里山で学童による植樹体験区域の整備。

事業成果

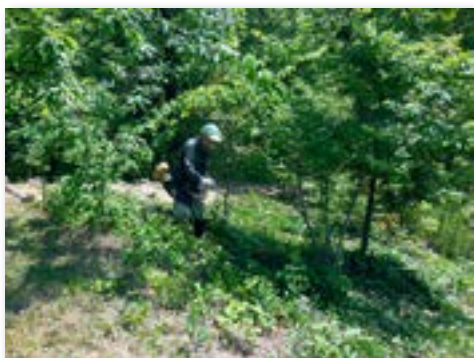
金蔵の里山保全活動は、遠隔地につき宿泊を伴う活動を行う予定であったが新型コロナウイルスの影響で日帰りの活動となった。地元住民及び能登地区の会員の参加を得て、今後の活動実行のための確実な一歩を踏み出すことができた。また、新規入会メンバーを中心に下刈機やチェーンソー使用について、ベテラン会員による安全指導等を行うことで、安全な作業につなげることができた。

事業をよく知る関係者の声

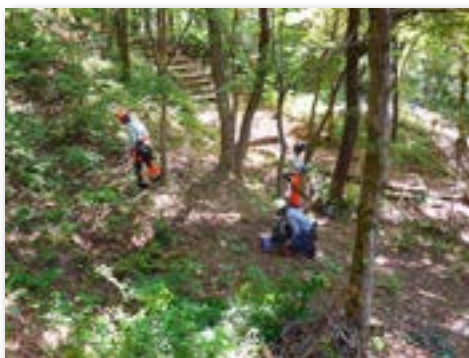
- ・一昨年行った地域の学童による森林整備の見学会が好評だったので、継続しての実施を希望したい。(憩いの森管理事務所員)

参加者の声

- ・地元住民の参加者が当会の活動を高く評価し、当会に加入することとなった。



下刈(憩いの森)



間伐(憩いの森)



植樹(金蔵地区)



歩道整備(金蔵地区)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
植付本数：20本
下刈面積：6.1ha
除伐面積：0.3ha
間伐面積：0.3ha

参加者数

県内：123人
計：123人

樹種

サクラ

小学校移動教室における林業体験プログラム

長野県富士見町



事業概要

森林管理署と協定を結んだ「遊々の森」内で、児童たちに木を伐倒してもらい、森林の整備を行うとともに、林業の大切さと協働を学ぶ機会を提供すること。主な活動は以下のとおり。①森林の役割と林業の重要性を伝える森林教室の開催、②自然の家スタッフの指導による危険木・支障木の伐倒、③伐倒木の丸太切り、道脇への運搬、④丸太のストープ用ペレット等への再利用。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による、移動教室の中止に伴い、林業体験も取りやめとなった。その代替として、各学校へ出向き、森林教室と丸太切り体験を行う「出前教室」を自己資金で実施した。

事業成果

新型コロナウイルス感染症の影響による移動教室の中止に伴い、体験林業も取りやめとなったため、令和3年度に向けての資材購入や体験場の整備を行った。令和3年度の

6月に2校で実施し、1年間のブランクがあるにもかかわらず、ケガや事故もなく終わることができ、準備の大切さを改めて感じた。

事業をよく知る関係者の声

- ・国有林を継続的に利用できる「遊々の森」制度を活用し、学校教育における「総合的な学習の時間」などで、森林の利用を通じた子どもたちの人格形成や、幅広い知識の習得を行う森林環境教育の場として積極的に活動している。(南信森林管理署)

参加者の声

- ・森林体験は本当に貴重、内容もとても充実している。(小学校教員)
- ・一本の木を伐るとき色々考えていることに驚いた。(小学生女子)
- ・今の地球環境を良くしていくには、自然を大切にしなければと思った。(小学生男子)



ノコギリで伐採体験



丸太運び出し



伐採木を切り分ける



森林教室(森の仕組みや林業の役割を解説)

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.6ha
間伐面積：0.6ha
森林教室：2回

参加者数

県内：32人
県外：187人
計：219人

名勝「金尾滝」周辺の「森の学び」整備事業

岐阜県大野町



事業概要

地域住民に親しまれ、子ども達にとって安全な森林空間の創出をめざし、雑木等が生い茂った森から広葉樹による景観林に変える。主な活動は以下のとおり。①雑木の伐採・ツル等の撤去、②下刈及び植樹場所の清掃、③広葉樹の植樹、④伐採木を利用してベンチ・テーブルの製作・設置、⑤地域住民の皆様への事業説明会、⑥地域住民をお招きして植樹会。

事業成果

雑木の伐採ができ、子ども達を集めての教育の場が整った。全員の力を合わせ困難な作業も克服できた。各イベントで諸団体とも交流し地域の絆が深まった。専門家の意見

も伺うことができ、次年度以降の活動へ役立った。

事業をよく知る関係者の声

- ・この事業は単なる森林整備にとどまらず、健康増進、森林環境教育、治水の面からも素晴らしい取り組みである。
- ・雑木の伐採とスギ葉の撤去を実施したことにより、ギフチョウ幼虫の餌となるカンアオイが自生してきている。数年後にはギフチョウの復活が期待できる。

参加者の声

- ・50年先100年先の、未来につながる森となることを願っている。
- ・皆で、素晴らしいユートピアにしていきたい。



支障木などを伐採



広葉樹を植樹



テーブル・ベンチを製作



階段設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.7ha
 植付本数：82本
 除伐面積：1ha
 間伐面積：1ha
 ベンチ・テーブル製作：1回
 植樹会：1回

参加者数

県内：173人
 計：173人

樹種

広葉樹

子どもたちと地域で育てる松野小学校の森とビオトープ整備事業

静岡県静岡市



事業概要

目的は、松野小学校の学校林とビオトープを静岡市民の憩いの場として提供するため、学校教育を通じて子どもたちへの森林環境教育とビオトープの整備を行うことである。

①経年変化により環境が悪化しているビオトープの連柴柵による護岸工事と浚渫工事、②景観と環境を向上させるための水生植物植栽工事、③経年変化で稼働しなくなった水車再生のための資材提供、森林環境学習環境向上のための樹名板の設置、④松野小学校の森で子どもたちが森と親しみ森を学ぶために行った森林環境教育、道具に触れる林業体験、野鳥観察及び樹木と触れ合うフィールドワーク、⑤募金の協力者であるファミリーマート静岡営業所とともに行った記念植樹と看板設置。

事業成果

20年ほど前に整備したビオトープが落葉などの有機質の堆積や土砂の流入、設置した水車などの重要な教育資源の

修復が必要な状況になっていたが、経費的な制約で整備が滞っていた。ビオトープが整備されたことで、学校教育の中でも積極的に活用できるようになった。また、事業を通じて森の中でロープを使用した自然のプランコやフィールドワークを楽しむことで、学校林への関心も高まった。

事業をよく知る関係者の声

- ・野鳥観察や森でのロープを使ったアスレチックは子どもたちに自然の中で遊んだり、学んだりする楽しさを伝えることができたと思う。(5年生担任)
- ・ビオトープのメンテナンスは落ち葉拾いなどかなり大変だが、きれいになると継続して手入れを続けていく意味が感じられるようになった。(教頭)

参加者の声

- ・当社が取り組んでいる虹の架け橋募金の具体的な使い道を知ることができた。機会があれば、また参加したい。(ファミリーマート営業所長)



森の話を聞く



薪割り



サクラを植樹



ビオトープ護岸工事(連柴柵と玉石水制工)

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：3本
 森と木の話：1回
 林業体験：1回
 フィールドワーク：2回
 野鳥観察：2回
 記念植樹：1回
 看板設置：1回

参加者数

県内：134人
 計：134人

樹種

サクラ

どんぐり交流会の山づくり

愛知県新城市



事業概要

平成8年度よりどんぐり交流会を実施し、どんぐりの苗木を毎年植栽してきた。当初植栽したどんぐりの木（コナラ）も大きくなり、混み合ってきているので除間伐を実施し、健全などんぐり山をつくる。

事業成果

新型コロナウイルス感染症防止対策のため、交流会は中止になった。ただ、山の除間伐はボーイスカウトを中心に実施できた。参加者は山の変化に気づくことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・除間伐を実施した結果、山の変化に驚いた。
- ・山の整備が悩みであったが、ここまで整備できると何度も足を運びたくなる。
- ・子どもたちが一生懸命除間伐を行っている姿をみると、将来が明るく感じられる。

参加者の声

- ・一日に何本も伐れない。結構疲れた。
- ・明るく、歩きやすい山になった。
- ・楽しみにしていた交流会が中止になり残念だった。



コナラの植樹



除間伐



階段の設置



樹名板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
 植付本数：80本
 除伐面積：3.6ha
 間伐面積：3.6ha

参加者数

県内：113人
 計：113人

樹種

コナラ

「森の教室」どんぐり山づくり①

愛知県豊田市



事業概要

「森の教室」で保育園児が植えたどんぐりの苗木でどんぐり山づくり、将来、学習の場、遊びの場、地域の交流の場となるようにすること。主な活動は以下のとおり。①どんぐり山を作るための準備（草刈り、階段設置、樹名板の作成と設置、標柱の設置、看板パネルの更新）、②どんぐり山の樹木を獣類から守るためのネットの設置、③子どもたち、保護者、地域の方、事業団体者による記念式典、④どんぐり山の維持管理など。

事業成果

上記①の里山に隣接した場所に、クヌギ・コナラ・アベマキを植樹し、どんぐり山が完成した。今回は、大人や子どもたちが協力してどんぐり山を整備し、また、植樹したことで感謝の心と愛情をもって活動できた。今後、多くの方々とともに、学習の場・遊びの場・地域の交流の場となっていくことが期待できる。

事業をよく知る関係者の声

- ・一人一人に自分の木があり、それを自分の手で植えたこと、また、保護者や地域の方々とともに活動したこと、全てが大きな意味をもつ活動であり、すばらしい取り組みだ。（事業団体会員）
- ・子どもたちが大人になったとき、小さな苗木が立派な木々になり、その年輪を親として次の世代の子どもたちに伝えていくことだろう。こういった一つ一つの積み重ねが大切。（区長）

参加者の声

- ・数年後にここでどんぐりの実を拾うことを今からわくわくしている。（6年生）
- ・コロナ禍で大変だろうが、このような企画によって良い経験ができた。（40代保護者）
- ・子どもたちが植えた木が大きく育ってほしい。（校長）



植樹地の草刈り



樹名板づくり



階段づくり



クヌギ、コナラ、アベマキなどを植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.08ha
 植付本数：100本
 下刈面積：0.08ha
 樹名板設置：3回
 防獣ネット設置：1回
 階段設置：2回

参加者数

県内：221人
 計：221人

樹種

クヌギ、コナラ、アベマキ

「森の教室」どんぐり山づくり②

愛知県美浜町



事業概要

技術や資金不足のために手入れが十分に行き届いていない学校林・裏山の整備を行う。主な活動は以下のとおり。①階段枕木・杭の取り替え、②除草作業。樹木の生長を促すための間伐・除伐、③どんぐりの苗植樹。

事業成果

学校林である裏山は、児童だけでなく地域住民の災害時の津波避難場所にもなっている。修繕した階段を上り高台に避難すること、また、斜面に集まるスペースを確保することができた。東屋やロープの遊具が設置された広場への経路を複数確保することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・今後も継続して手入れをする必要がある。今後も学校と地域で連携して整備活動に取り組んでほしい。(青少年を守る会会長)

参加者の声

- ・植樹をして木が大きく育ってほしいと感じた。自分がつくった樹名板が階段や通路の両端に立てられて自分たちも整備に関わることができて良かった。(4年生)
- ・裏山の斜面の草刈りは足を取られて厳しい作業であったが、子どもたちのためという気持ちで取り組んだ。自然とふれ合える機会が減少している中、このような場所が学校校地内にあることは良いことだ。これからも学校の裏山を大切にしてもらいたい。(50代男性)



除草



階段の修繕



樹名札づくり



コナラ、クヌギ、アベマキを植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.03ha

植付本数：50本

下刈面積：0.4ha

参加者数

県内：32人

計：32人

樹種

コナラ、クヌギ、アベマキ

あさくら里山再生プロジェクト

愛知県知多市



事業概要

地域で唯一残された里山を整備し、50年以上前の賑わいを取り戻し地域住民の憩いの場とする。

主な活動は年4回の草刈、竹林の伐採、小径の整備など里山整備事業を行い、子どもたちや地域の人々にオリエンテーリング等に参加してもらい、気軽に遊んだり、花見ができる場所にする。

事業成果

耐久性のある材料で散歩道を延長することができた。幟を里山の入口や大きな市道の脇に設置でき目立つようになった。樹名板を設置したことにより来訪者も樹木の名前がわかるようになった。

事業をよく知る関係者の声

- ・反省点としては、植えた木や剪定してはいけない枝を剪定してしまった事があった。参加者への事前指導を徹底していきたい。(事務局OB)

参加者の声

- ・継続して整備する必要がある。(会員)
- ・毎年良くなっていて、サクラがきれい。樹木の名前が分かるようになった。(地域住民)
- ・園児たちが喜んで遊んでいる。(保育士)



サクラ、ウメを植樹



下刈



看板などを設置



樹木名を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：10本

下刈面積：1ha

参加者数

県内：161人

計：161人

樹種

サクラ、ウメ

未来を担う子ども達へ森林文化を伝えよう

三重県桑名市、いなべ市、鈴鹿市



事業概要

ゲーム等に傾倒している現代の子ども達に、木工体験を通じて木の持つやさしさや香りに触れ、そのぬくもりや達成感を感じてもらうこと。主な活動は次のとおり。①国有林の間伐で出た枝等を木工作品づくりに活用、主に公民館等に出向き工作を指導。②ヒノキ林の中に間伐した木材等を利用して遊び場となる空中遊歩道づくり。

事業成果

公民館等に出向き木工指導する出前講座では、活動が広く知られるようになり依頼数が増えた。また、子どもアイデア楽工の秘密基地づくりにおいては、学年が上がっても

継続して参加している子ども達が下級生をリードしながらいっしょに遊び、学校ではできない体験をしている。

事業をよく知る関係者の声

- ・参加者数を絞るなどコロナ対策に苦心したが、開催できて良かった。(公民館職員)
- ・コロナ禍、外で遊ぶ機会が少ない子ども達の貴重な時間となる。(アイデア楽工理事)

参加者の声

- ・うまく作ることができてうれしい。(木工教室参加児童)
- ・クギが太いので打ち込むのが難しかった。少しずつできていくと楽しい。(アイデア楽工参加児童)



タケでドームづくり



空中回廊づくり



丸太切り



ベンチづくり

実績とりまとめ

作業内容

間伐本数：78本
木工体験：8回
こどもアイデア楽工：13回

参加者数

計：376人

子供達・地域の人々が安全、快適に集える雌岡山梅林の管理、整備育成及び環境保全

兵庫県神戸市



事業概要

市民の安らぎと憩いの場、子ども達には自然の大切さを学び体力知力増強の場の提供に努める。主な活動は、①下刈、倒木の除去、樹木の剪定整枝、遊歩道の整備、施肥。安心、安全に過ごせる憩いの場、教育の場の設営、②来訪者への森林の大切さの説明と交流、③子どもたちの環境学習との触れ合いの機会をつくる、④梅見食事会(3月)収穫体験会(6月)の開催等で広く一般来訪者や子どもたちとの交流を図る。

事業成果

この時節、地元中学校の例年の校外学習ができず相談を受け、2年生全員で行う梅林内整備の作業を提案し実行した。広報活動の活発化で少人数グループや家族づれの来訪が増え団体来訪者の減少をかなりカバーできた。収穫体験会の後枝払い応援隊に来てもらい、剪定作業後は梅の実の

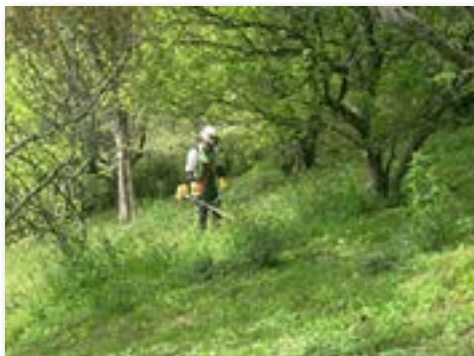
収穫を楽しんでもらえ、我々も助かった。

事業をよく知る関係者の声

- ・整備活動は長年の実績通り手慣れているので問題ない、毎日通っても飽きない。(毎日登山会会員)
- ・四季の花々で楽しめる。日頃の苦勞がうかがえる。(毎日登山会々員)
- ・素晴らしい環境なのでワーキングホリデー等の学習の場として提案し実現できて嬉しい。(中学教員)

参加者の声

- ・コロナで学校でも家でも活発に活動できなかったが、明石大橋や淡路島を見下ろし、大声で歌えて気持ち良かった。(中学2年男子)
- ・すぐ下まで毎日通学しているのにここには初めて来た。梅林整備活動で汗をかき嬉しかった。(中学2年女子)
- ・ウメの実の収穫ができて感動した。(家族での参加者)



梅林の草刈り



サクラを植樹



梅まつり



中学生による梅林整備

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：47ha
植付本数：5本
名札付け：1回

参加者数

県内：295人
計：295人

樹種

サクラ

コウノトリ育む森づくりと森の恵み自然体験

兵庫県豊岡市



事業概要

荒廃が進む森林を整備し、市民が利用できる森づくりを行うと共に整備によって出た材の有効活用を考え、実行すること。主な活動は以下のとおり。①竹林整備、②広葉樹林整備、③タケを使った製作体験。

事業成果

倒木や倒れかかっているタケを中心に整備し遊歩道付近がすっきりした。参加者を募って行った竹林の整備では伐りやすいものから伐った。当日は講師から森の仕組みや現状・整備について教えていただき、実際に整備やタケの活用などを体験してもらうことで森に対する興味を持って

もらい、森林の大切さも伝えられた。タケでキャンドルとテントを製作し完成品は参加者が持ち帰った。

事業をよく知る関係者の声

- ・タケはいくらでも伐ってほしい。(男性)
- ・地区としても何をやっていけばいいのか悩んでいる。ぜひ連携させてほしい。(地元育成会会長)

参加者の声

- ・タケを30年ぶりに伐ったが、今回参加させてもらった事で普段感じない事や達成感を味わえた。こういう体験はとても必要なことだと感じた。(40代男性)



竹林整備



子どもたちが伐採体験



「山に暮らす生き物について」の説明



竹材を使ってのテントづくり

実績とりまとめ

作業内容

除伐面積：0.3ha
間伐面積：0.5ha
森林資源活用：2回

参加者数

県内：57人
計：57人

生駒市西畑町の棚田・里山の再生と創造

奈良県生駒市



事業概要

棚田・里山の多面的機能を守るとともに、未来を担う子どもたちの自然教育の場を構築する。事業内容は、①休耕棚田の景観整備（草刈・花の道）、②里山林の整備（除伐、枯れ損木処理）、③休耕棚田に果樹園や山野草を植える、④里山林に植樹、⑤山のようにちえんの野外教室の場を提供、⑥小学生対象の棚田・里山体験会の開催など。

事業成果

コロナ感染予防でいくつかの事業が中止または縮小となったが、会員の活動に支えられほぼ予定どおりの活動内容になった。また、棚田の景観を維持することは、地元自治

会及び家族連れとの交流により生物の多様性となりSDGsにもつながっている。

事業をよく知る関係者の声

- ・西畑町自治会の協力依頼により活動しており 自治会と友好的な関係で信用を得ている。
- ・自治会とは年に数回の協働で草刈りを実施して、棚田の景観を維持している。

参加者の声

- ・山のブランコが面白い。(小学生)
- ・川遊びが1番楽しかった。(小学生)
- ・ここ1か所でいろいろ楽しいことができる。(小学生)



下刈



除伐



シイタケ植菌イベント



休耕田の草刈り

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：25本
下刈面積：1.1ha
除伐面積：0.1ha
草刈り面積：2ha
栽培面積：0.03ha
環境教育・イベント：34回

参加者数

県内：462人
県外：1081人
計：1543人

樹種

ヤブデマリ、タニウツギ、サラサドウダン

子ども達の心を育てる持続可能な森づくり

奈良県天理市



事業概要

持続可能な森づくりをめざした活動に携わることにより、自然と人との繋がりを体感し、主体的に環境について考える心を育むこと。主な活動は以下のとおり。①草刈機講習会とチェーンソー講習会（大人向け）、②自然物を活かした遊具（ツリーハウス）づくり、③夏休み自然体験活動、④果樹苗木の植樹など。

事業成果

刈払い機やチェーンソーの使い方・知識を学んだことで女性も刈払い機が使えるようになったり、朽ちた丸太等をカットし、薪として利用できるようになった。

ツリーハウスづくりや自然体験活動を通して、新たな発見や自然の深さに気付いたり、木を使って作り出せる楽しさを味わう姿があった。またコロナ禍の中での活動は森のありがたさや自然と共に生きるということの大切さを改めて感じさせられた。果樹の植樹は森づくりの楽しみの1

つにも繋がった。

事業をよく知る関係者の声

- ・コロナ禍で自然体験の場が減少している昨今、イベントを開催できた事は大きな意味がある。子ども達が自然に触れ、心が動く体験の学び場を今後も継続してやっていけたらと思う。森をみんなで作っていくプロセスは自分や他者や自然を大切にしていける事につながっていくように感じた。(スタッフ)

参加者の声

- ・使う前は機械は怖いというイメージだった。講習を受けて女性でもできるという感触になった。年に1回くらいは保護者向けに講習会を設けたら良いのではと思った。(30代女性)
- ・グループに分かれてのネイチャーゲームが楽しかった。(小学生女子)
- ・植樹するときの土づくりは勉強になった。(40代男性)



刈払い機講習会（大人向け）



チェーンソー講習会（大人向け）



果樹の植樹



ツリーハウスづくり

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：8本
下刈面積：1.5ha
自然体験：1回
遊具づくり：4回

参加者数

県内：38人
計：38人

樹種

果樹5種、サルスベリ

みんなでつくるドングリの森林

鳥取県鳥取市



事業概要

「森の教室」に参加した園児達が育てた苗木を自分たちで植え付け、成長を見守ることで森林への関心の醸成を図り、森のともだちを増やしていく。主な内容は、「森の教室」に参加した鳥取市内の5保育園の150人が、自分たちがドングリから育てたコナラの苗木を森林公園に植樹。

事業成果

自分たちが育てた苗木を植樹し、今後の成長を見守ることで森林への関心を高められた。

事業をよく知る関係者の声

- ・小さな苗木を子どもたちが植えることを通して、広く自然の役割や緑の豊かさ、環境保全意識の高揚を発信できる事業として、また「未来を植える事業」として今後も続けていきたい。(森林公園指定管理責任者)

参加者の声

- ・ドングリが芽を出し苗木になるという流れも子どもたちは知ることができ、育てた苗木を山に植えるという貴重な体験もできた。ありがとうございました。(保育園長)



苗木贈呈式



コナラを植樹



ていねいに植樹



獣害防止柵を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：150本

参加者数

県内：181人

計：181人

樹種

コナラ

五感で感じる森のある園庭づくり事業

島根県大田市



事業概要

保育園の周りは国道やJRに囲まれ、自然を感じることの少ない環境となっているため、子どもたちが木に触れ、自然を体験できる「森のある園庭」づくりを行う。主な活動は、①園庭への植木の植え付け、②丸太の遊び場づくり、①・②については、園児、保護者、先生といっしょに行った。③看板製作については、プロのイラストレーター、教育コーディネーターを講師に招き、子どもたちの自然を大切にする気持ちを題材に絵を描き製作した。

事業成果

整備した園庭は、周囲の福祉施設からも見ることでできる場所である。将来は、地域の施設利用者の方もいっしょになって緑を感じることでできるような場として環境整備を行うことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、植樹の作業から遊び場整備と一部の保護者のみの参加となり、残念だった。この活動で終わりとせず、今後も保護者会で整備し続けられるようにしていきたい。(保護者)

参加者の声

- ・子どもと植樹を行ったことで、園での生活の中で緑を大切にするようになった。家でも植樹した植物の成長について話をしてくれる。(30代男性)
- ・木材を加工して遊び場づくりに参加したが、初めてドリルを使ったり楽しんで取り組めた。園庭に保護者が作製したものがあると子どもたちも大切に使うと思う。(20代女性)



園庭に植樹



アオダモ、ウラジロガシほかを植樹



看板づくり



園庭の遊び場整備

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.01ha
植付本数：82本
看板製作：1回
遊び場整備：1回

参加者数

県内：74人
計：74人

樹種

アオダモ、ウラジロガシ、ユキヤナギ、ヒサカキほか

みんなで育てよう伊部つながりの森整備事業

岡山県備前市



事業概要

「伊部つながりの森」は平成21年に(株)ティシーシーが森林所有者である伊部区有林管理会と協定を締結し、同社が社会貢献活動として森づくりを行うため設定した。①この場所を活動の基地として平成25年に片上、伊部自治会及び(株)ティシーシーによる実行委員会を設立し森林作業だけでなく、森林を活用した体験学習に取り組み、本年度で8年目である。備前市内4小学校5年生が共に森林体験、森の役目について学び交流を通じて親睦を深めた。

事業成果

長年にわたる活動が評価され、備前市第3回備前楷の木賞(地域貢献賞)を受賞した。

事業をよく知る関係者の声

- ・こうした事業を長年にわたり続けており、今後も継続してほしい。応援を続けたい。備前市も当会の貢献を認め評価をしている。行政に働きかけて学校行事に取り入れる活動をしてはどうか。(備前ロータリークラブ)

参加者の声

- ・寄せられた感想文に、森の役割、植栽、シイタケ植菌、コースターづくりなど全ての経験について喜び感謝している、との記載が多い。
- ・子どもたちも山で遊ぶことで、学校では見えない行動が出ており野外活動の重要性を感じた(教員)



「森の働き」の話を聞く



植樹方法の説明



マツを植樹



シイタケの植菌

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
 植付本数：200本
 シイタケ植菌：2回
 コースターづくり：2回

参加者数

県内：164人
 計：164人

樹種

桃太郎松(抵抗性マツ)

伊部区有林マツ再生事業

岡山県備前市



事業概要

備前焼の主燃料のアカマツは松くい虫の被害で壊滅状態のため、10年前から森林の再生に取り組み、緑の少年隊や地元小学校に呼びかけて市民参加の森づくりを行っている。

事業成果

雨天の為、緑の少年隊と区有林管理会関係者が日を別にして行事を行ったが、緑の少年隊はサブメニューの消防署見学のみでなく天候が回復したので植栽及びシイタケ植菌を行った。子どもたちは指導者と共に作業し、森林に興味を示していた。区有林関係者は初めて山作業をする人が多く子供たち以上に興味を示し、今後は機会があればどんどん参加したいとの心強い賛同を得た。

事業をよく知る関係者の声

- ・雨天のため合同での植栽はなくなり緑の少年隊と区有林関係者との一体感を味わうことができず残念だった。機会をつくっておじいさんと孫の出会いを増やしてほしい。

参加者の声

- ・少年隊行事としてこのような機会を毎年つくっていただきたい。道具を使っでの行事はあまりないので期待している。(保護者)
- ・今年度は私たちは経験もないので外部委託した、機会があれば事前作業に参加して共に苦勞をしたのと心強い発言があった。(区有林関係者)



マツを植樹



シイタケの植菌



伊部区有林管理会員による植樹



植樹地

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha

植付本数：200本

下刈面積：0.1ha

シイタケ植菌：2000コマ

参加者数

県内：107人

計：107人

樹種

マツ（桃太郎松）

楽しい里山二島

山口県山口市



事業概要

目的は、里山の整備「竹林ボランティア山口南」の継続活動。森林を持続可能な里山として整備し、子どもたちに里山の魅力、自然と触れ合うことの楽しさを知ってもらい、地域の交流の場となることをめざす。

事業成果

竹林を整備したこと、大木2本を伐採し安全性が確保された里山となった。里山がすっきりと見渡せるようになり、子どもたちの安全性も向上してきた。参加者のさらなる広がりの可能性を確信した。また、里山の将来像が明確となり、活動の活力となった。

事業をよく知る関係者の声

- ・以前の竹林からは想像できないくらい、明るく散歩しやすい里山となつてうれしい。(女性)
- ・昔はこの里山の中に遍路道があり山遊びや通学をしていたが、遍路道が復活し歩けるようになったことがうれしい。(男性)

参加者の声

- ・これまで環境整備を行い里山として整備してきたが、今年竹林や木の伐採面積も広がり、大木も伐採され、山道も整備され、明るく安全な里山として手ごたえが感じられた。(80代男性)
- ・山が歩けるようになってうれしい。(中学生男子)



大木の伐採



竹林整備



竹材をチップ処理



竹林ボランティアのみなさん

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.6ha
 植付本数：100本
 下刈面積：0.7ha
 除伐面積：0.7ha
 間伐面積：0.7ha
 作業道路整備：80m
 落葉の掃除：10回
 竹チップづくり：16回

参加者数

県内：160人
 計：160人

樹種

アジサイ

子ども達に託せる美しい里山づくり

高知市春野町



事業概要

都市公園である春野総合運動公園の未整備自然林(0.5ha)の竹木類の除伐採を実施するとともに、伐採後の林内には鑑賞木であるサクラやモミジの苗木を植樹し、子ども達に託せる美しい里山づくりの礎を築くことができた。

また、令和3年2月に開催した植樹祭では地域住民や子ども達にも参加してもらい、森を守ることの大切さも実感してもらうことができた。

事業成果

前年度の事業で植樹されたサクラやモミジの苗木の養生としての下刈を実施するとともに、新たな植栽地の確保をめざして竹木類の除伐(0.5ha)と地拵え作業を行い、本年度もサクラとモミジを植樹した。

コロナ禍の中で大々的に呼びかけることは難しかったが、企業や行政、地域住民などの協力も得られることとなり、事業としての大きな拡がりも示してきた。

事業をよく知る関係者の声

- ・目を覆いたくなるようだった荒廃林が、見事なまでに明るく様変わりしてきて感動している。サクラやモミジを植樹してもらったことによって、10年後や20年後のサクラの名所としての里山の姿にも思いを馳せることができる取り組みに、心より感謝している。今後は、財団としても継続した整備に力を注いでいかなければ…との想いを新たにしている。(高知県スポーツ振興財団理事長)

参加者の声

- ・「自分たちもその一助になれば…」との想いで子ども達とともに参加させていただいたが、子ども達が成長していく過程の中で自然を大切にしていって思いが芽生えていくしてくれたらと願っている。植樹だけでなく木工クラフトもセットされているなど素晴らしい取り組みであり、これからも継続していただければありがたいし応援していきたい。(地元住民)



サクラ、モミジを植樹



植樹に参加した皆さん



木工体験



タケの伐採

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.8ha
植付本数：101本
下刈面積：1.1ha
除伐面積：0.35ha

参加者数

県内：209人
計：209人

樹種

サクラ、モミジ

傷と病から身を守る森づくり

熊本県水上村



事業概要

地震等自然災害や疫病に備え、子どもたちの自己回復力や抵抗力を高めるために、子どもたちと共に薬用・食用植物に触れられる森を創り出すことである。主な活動は以下のとおり。①子どもたちが森に入りやすくするための進入路づくり、②植物を採取し食してみる、③苗木を植樹するのに必要な道具や技法を現場で学び実際に植える、④山で体験したことを絵にし、家族や友達に話せるようにする。

事業成果

進入路や歩行路を整備したことによって、森に対する警戒感や恐怖心を低下させることができた。「秋の現地下見作業」と「春の植樹」の2回の作業を体験することによって、子どもたちの山に対する親近感が高まってきた。その様子が子どもたちが描いた体験絵図からうかがうことができる。

事業をよく知る関係者の声

・「傷と病から身を守る」ということに着目した取り組みは、一般に縁遠く感じられていた「森づくり」に広がりをもたせるものとして期待されるが、その効果を実感できるようになるには、もっと足繁く森に通う動機づけが他にも必要だと思われる。今年度参加者が来年度も引き続き参加したくなるような企画が望まれる。(水上村出身者)

参加者の声

・森の中は、歩くのだけでも大変だということがわかった。植樹後の手入れにも参加するならば普段から足腰を鍛えておかななくてはいけない。(令和2年球磨川豪雨災害の被災者60代男性)

・高校生がピョンピョンと跳ねるようにして斜面を登っていくのを見て、森づくりには若者が不可欠と実感した。(50代女性)



薬用・食用植物採取



避難小屋適地探し



基幹通路の整備



コナラ、トチノキほかを植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.55ha
植付本数：139本
樹勢回復：8本
下刈面積：1.5ha
除伐本数：15本
基幹通路整備：150m

参加者数

県内：77人
県外：1人
計：78人

樹種

ジャケツイバラ、コシアブラ、ハリギリ、クルミ、モミジ、コナラ、トチノキほか

子どもとミツバチの森づくり活動

鹿児島県南九州市



事業概要

目的は、養蜂に適したミツバチの森づくりとともに、子どもたちが森林内で遊び、学ぶことのできる森林体験学習の森林を整備すること。そのため、荒廃森林の地拵えを行い、地域の子どもたちと養蜂協会の会員が、養蜂に適した蜜源樹を植栽する活動を行うとともに、林内の歩道整備と間伐材を使用したツリーデッキを整備した。

事業成果

森林ボランティアの日には、多くの人が下刈に参加し、森林造成において保育作業の重要性を学んだ。間伐材を利用したウッドデッキや歩道を整備し、森林をより身近に親しむことができるようになった。

事業をよく知る関係者の声

- ・馬事公苑の森が森林ボランティアの手により、毎年整備され、多くの市民に利用されつつあり感謝している。今後も、南九州市としても活動に鋭意協力していきたい。(南九州市都市計画課森林管理者)

参加者の声

- ・蜜源樹の植樹活動を地拵えからすべての面で進めていただき感謝している。(養蜂協会員)
- ・森の中で遊ぶのはすごく楽しい。来年もぜひ参加したい。(児童クラブ児童)



植樹方法の説明



蜜源樹の植樹



ウッドチップで整備した歩道



ツリーデッキ

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
植付本数：150本
下刈面積：2ha
ツリーデッキ製作
歩道整備：120m

参加者数

県内：248人
計：248人

樹種

ヤマザクラほか14種

